

放課後子ども教室における自然体験活動の充実に向けて

広島県立生涯学習センター

主査 岡澤 秀之

1 はじめに

昨年度のコーディネーター等研修会のアンケートや、今年度6月に府中町の放課後子ども教室を視察した際の町の担当者の話から、活動内容について交流したいという思いが強いことが分かった。そこで、放課後子ども教室でのさまざまな取組（活動）をとりまとめ、あまり実施できていない分野の活動を情報提供することにより、県内の放課後子ども教室の活動の支援につなげていくことを目的としたい。

2 先行事例から

(1) 放課後子ども教室推進事業とは

各市町村において教育委員会と福祉部局とが連携を図り、原則としてすべての小学校区で放課後の子どもの安全で健やかな活動場所を確保し、総合的な放課後対策として実施する「放課後子どもプラン」が平成19年度に策定された。

放課後子どもプラン推進事業は、少子化や核家族化の進行、就労形態の多様化及び家庭や地域の子育て機能・教育力の低下など、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後等に子どもが安心して活動できる場の確保を図るとともに、次世代を担う児童の健全育成を支援することを目的として、平成19年度より文部科学省による放課後子ども教室推進事業と、厚生労働省による放課後児童健全育成が実施されている。

放課後子ども教室推進事業では、全国の小学校区において、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としている。

(2) 放課後子ども教室の運営・実施

放課後子ども教室推進事業は、次の内容・機能を有するものとされている。

- ① 放課後や週末等における地域の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）の確保
- ② 地域の様々な資質を有する多くの大人の参画を得て、子どもたちに、様々な

体験・交流・学習活動の機会を提供

- ③ 様々な体験・交流・学習活動を通して、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性の涵養
- ④ 地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実
- ⑤ その他子どもたちが地域の中で安心して健やかに育まれる環境づくりを推進するために必要な活動

(3) 文部科学省による放課後子ども教室における体験活動の充実に向けての取組

放課後子ども教室における体験活動の充実に向けて、文部科学省は資料『放課後子ども教室』におけるプログラム開発のために（平成22年9月 文部科学省生涯学習政策局生涯学習調査官 金藤ふゆ子）を作成した。その中で、子どもの集団形成を意識した体験活動等を実施することにより、子どもたちに、活動に対する興味・関心の向上、自然・社会等に関する知識の増加や技能の向上、自主性・自発性の育成、耐性の強化・伸長、社会性の育成、規範意識や協調性の高揚のような効果が生まれることが期待されるとしている。そして、個別プログラム例を、「自然体験・環境学習関連」「教科に関する学習関連」「伝統文化継承」「異文化理解」「食・料理体験」「異年齢・世代間の交流」の6種類に分類し、紹介している。

(4) 他県の動向～くまもと放課後子どもプラン活動レシピ集～

熊本県では、放課後子ども教室の活動を活性化させるため、県内の放課後子どもプラン関係者や、子どもたちの様々な活動を支援する人のために、県内の放課後子ども教室や放課後児童クラブで日頃から実践されているプログラム事例を参考に、活動レシピ集を編集している。

内容は、工作（いろいろなものを作ってみよう）…11事例、教科学習（楽しく遊ぼう）…4事例、自然体験・環境（自然にふれ合い環境を大切にしよう）…5事例、料理・食（料理しておいしく食べよう）…4事例、伝統文化・異文化理解（伝統や異文化にふれてみよう）…5事例、運動（体を使って楽しもう）…4事例で構成し、様々な分野の活動をバランスよく紹介されており、教室関係者にとって、大変参考となる資料となっている。

3 広島県の状況

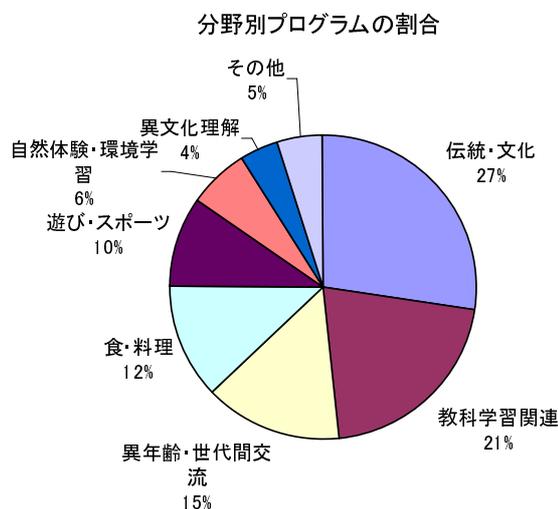
(1) 活動の様子

県内の放課後子ども教室の活動状況を調べるため、第1回放課後こども教室コーディネーター等研修会参加者から提出された、教室の活動についての事前アンケートを集計した（24教室分）。分野は『放課後こども教室』におけるプログラム開発のため

に」(平成 22 年 9 月 金藤ふゆ子)の個別プログラム事例の「自然体験・環境学習関連」「教科に関する学習関連」「伝統文化継承」「異文化理解」「食・料理体験」「異年齢・世代間の交流」に「遊び・スポーツ」を加えて分類した。その結果を次の表とグラフに表した。

分野別プログラム数

分野	プログラム数
伝統文化	34
教科学習関連	26
異年齢・世代間交流	18
食・料理	15
遊び・スポーツ	12
自然体験・環境学習	8
異文化理解	5
その他	6



特色ある活動事例

教室名	活動名	ねらい
河内放課後子ども教室 (東広島市)	箏太鼓	・ 伝統芸能を伝える。
尾道市放課後子ども教室 (尾道市)	詩吟	・ 正しい姿勢を持続することを身につける。 ・ 人生に教訓となる詩文の内容を通し、相手を思いやる心・平和を願う心・感謝の心等、豊かな感性をはぐくむ。 ・ 人間としての生き方を学ぶ。
放課後はつかいち寺子屋塾 (廿日市市)	風呂敷包み 紐かけ	・ 手先の器用さを養う。 ・ 普段の生活の中で、「自分でできることは自分でやる」ことを心がけさせる。
府中町放課後子ども教室 (府中町)	百人一首	・ 日本の伝統文化に触れる ・ 五・七・五・七・七のリズムを楽しむ。 ・ カルタ遊びを通して、子ども同士の交流を図る。
わくわくスクール (大崎上島町)	工場訪問	・ 近隣の工場を訪問し、自分たちの生活が産業によって支えられていることを学ぶ。 ・ 働くことの大切さを学ぶ。
戸河内小学校こども教室 (安芸太田町)	中国語教室	・ 世界の言葉にふれる。 ・ 講師であるお年寄りとの交流を図る
さぎうら放課後子ども教室 (三原市)	島を訪れる方を迎えるボード作り	・ ボランティアガイドに役立て、地域の活性化に役立つ喜びを味わう ・ 地域の良さに気づき、誇りを持つ。

この結果から、七夕などの季節の行事や茶道などの日本の伝統文化に親しむ活動、異学年と協力したり地域の人と一緒にゲートボールなどをしたりして交流する活動、宿題・工作など教科学習関連のなどは、教室関係者にとって身近で取り組みやすいと考えられるのでプログラムが多いことが読み取れる。

一方で、自然体験や異文化理解といった活動のプログラムが少ない。異文化理解については身近に外国人などの外国文化に精通した人があまりいないことが考えられる。自然体験については、例えば、庄原市たか放課後こども教室では、川遊び、魚釣り、サツマイモ栽培、動物とのふれあいなど、地域の豊かな自然を利用した多様な自然体験活動が行われている。しかし、自然があまり豊かでない地域では、ほとんど行われていない。街中の限られた環境では、自然体験活動を実施しにくいとされていることが考えられる。

(2) 自然体験活動の効果

自然体験活動を中心とした体験活動については、広島県では、日常とは異なる環境での生活を体験し、児童の自立心や主体性などを育てるとともに、体験先の地域住民や学校との交流を通して、コミュニケーション能力など人間関係を形成する力を育てることを目的に、平成 22 年度より、「山・海・島」体験活動推進事業を実施している。この事業で実施している長期宿泊体験活動は、教育効果が高いことから、平成 25 年度からは、新「山・海・島」体験活動“ひろしま全県展開プロジェクト”として、重点事業に位置づけられている。

自然体験活動の成果について、独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターによる「青少年の自然体験等に関する実態調査」では、青少年の自然体験が減少していること、自然体験の多い青少年は、道徳観・正義感が身につけているという結果が出ている。また、独立行政法人国立青少年教育振興機構による「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」では、自然体験活動を多くしている青少年ほど自律性、積極性、協調性が高く、自立している青少年が多いという結果が明らかになっている。

体験活動の充実については、法律にも規定されている。平成 13 年に学校教育法と社会教育法が改正され（平成 13 年 7 月 11 日公布，施行），学校教育と社会教育が相まって体験活動を促進し、児童生徒及び青少年の社会性や豊かな人間性を育む観点から、自然体験活動をはじめ、多様な体験活動の充実を図ることが規定されている。また、平成 19 年には学校教育法が改正され（平成 19 年 6 月 27 日公布，12 月 26 日施行），義務教育の目標の一つに、学校内外における自然体験活動の促進が規定されている。

これらのことから、放課後子ども教室の活動においても、自然体験活動を充実させる必要がある。そこで、校庭などのちょっとした自然の中でも手軽に実施できる自然体験活動プログラムを紹介する。

4 手軽にできる自然体験活動

(1) フィールドビンゴ

概 要	木の実やぬけがらなど、自然の宝物を探すビンゴゲームです。		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な感覚をとぎすます。 ・ 観察力を高める。 ・ 自然からの発想を得る。 ・ 仲間と協力することの大切さを感じる。 		
所要時間	1時間～2時間	人 数	数人～100人程度
準備物	フィールドビンゴカード、クリップボード、筆記用具		
活動方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 グループ編成 2 活動の約束を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが自然に触れるゲームで、普段はあまり気付かない自然の宝物をたくさん見つけること。 ・ ビンゴカードに書かれている課題を見つけていく。例えば「白い花」を見つけたら、「白い花」のますに○をつけること。 ・ ますが縦・横・ななめにそろったらビンゴであること。 ・ グループでまとまって行動すること。 ・ 1つの課題に対して、複数みつけたらグループで話し合っ、どれにするか決めること。 ・ 集合時間、集合場所 ・ 花や草をとるときは、必要なものだけ自然から分けてもらうこと。 3 グループで課題をみつけていく。 4 各グループでみつけたものを全体に紹介する。 5 ふりかえり 		

フィールドビンゴカード（例）

たまご	鳥の鳴き声	いいにおいのするもの	赤い葉
ふわふわしたもの	とても小さい虫	みんなのおすすめ	折れた枝
幹がごつごつした木	食べあと	大きな葉	きのこ
白い花	くもの巣	つるつるしたもの	鳥の羽

まずに入れる課題（例）

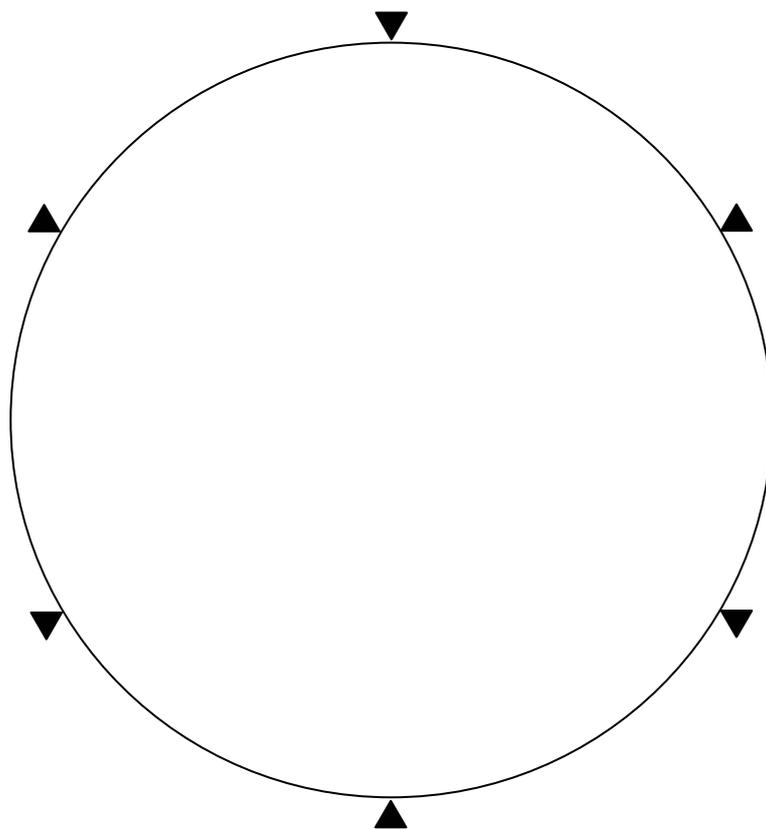
赤い実，黒い実，白い花，黄色い花，赤い花，とがった葉，ハート形の葉，赤い葉，黄色の葉，自分の手の平より大きい葉，穴の開いた葉，顔みたいな葉，幹がよこじまの木，幹がたてじまの木，幹がごつごつした木，折れた枝，きのこ，鳥の羽，ぬけがら，とても小さい虫，たまご，虫の鳴き声，鳥の鳴き声，植物の種，植物の芽，服にくつつくもの，くもの巣，風の音，生き物のふん，こけ，木のあかちゃん，ふわふわしたもの，ちくちくするもの，つるつるしたもの，ざらざらしたもの，いいにおいのするもの，生き物のすみか，食べあと，動物の落し物，みんなのおすすめ など

※ まずは3×3，5×5にしてもよい。

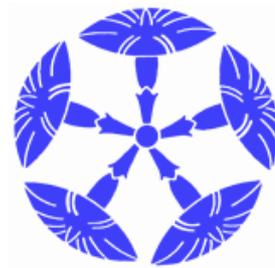
(2) 自然の紋

概 要	自然の中の形を見つけ、自分の感性で自然の紋を作ります。		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察力を養い、自然への親しみを持つ。 ・ 自然界の形に気づく。 ・ 先人の感性や美意識にふれる。 ・ お互いのよさを感じる。 		
所要時間	1時間	人 数	1人以上
準備物	自然の紋カードまたは無地の紙、筆記用具（鉛筆、マジック）、クリップボード、家紋紹介用資料		
活動方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 いくつか家紋を見せ、家紋がどのようなものであるか示し、家紋には自然をモチーフにしたものもあることを説明する。 2 活動の約束を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動範囲 ・ 集合時間・集合場所 ・ 生きている植物を取ったり、木の枝を折ったりしない など 3 1人ずつ自然を観察し、気に入った自然の形を探す。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 木、山、雲などの大きなものから、虫、葉、花、花びら、おしべ、めしべ、葉脈などの小さなものまで。 ※ 自然を観察する時間を十分とる。 4気に入った形をシンボル化して、カードにかく。 5 みんなで紹介しあう。 6 ふりかえり 		

自然の紋カード



いろいろな家紋



5 おわりに

本文中にも述べたように、現在の青少年の自然体験（直接体験）が減少している。私が子どものころは、子どもが山の中を駆け回ったり、川で生き物を捕ったり、網を持って虫捕りをするといった姿が良くみられたものである。しかし、現在では、その姿をあまり見かけない。危ないという理由で学校のきまりなどで禁止されたりするなど、子どもの自然の中での活動に大きな制約がある。また、ある生き物を、名前・大きさなど、知識としては知っているが、実物を見たことがない（見ることがない）ということも非常に多い。実物を見ることがないため、それらをじっくり観察することもないし、それらの特徴・不思議さ・面白さなどを実感することができない。

江田島市にある大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館）の西原直久館長は、子どもたちに海辺の生物観察を実施する際、生き物の名前はほとんど説明しない。子どもたちがそれぞれの生き物の名前が何であるかに固執してしまい、特徴などをじっくり観察しようとしなからである。じっくりと観察させるために、例えばヤドカリであれば、触角の色、足の模様、体の色などで種類を分類させ、様々な違いに気づかせる工夫をしている。まさに自然の不思議さ・面白さを感じることができる活動を仕組んでいるといえる。館長は「ふるさとの自然を知る子どもは、ふるさとを語れる大人になる」という。

是非、子どもたちには、学校内外での多くの自然体験を通して、自律性、積極性、協調性を高めるとともに、ふるさとに愛着を持ちふるさとを語れる大人になってほしいものである。そのためにも、今回は、放課後こども教室においても自然体験活動を充実できるよう、手軽にできる自然体験活動プログラムを提供した。

様々な分野をバランスよく学習することが大切なので、今後は自然体験活動だけでなく、他の分野の活動についても、子どもの健やかな成長のために、プログラムを提供していきたい。

参考・引用文献および参考URL

- ①文部科学省「放課後子どもプラン実施要項」平成24年5月1日
- ②文部科学省生涯学習政策局生涯学習調査官 金藤ふゆ子『放課後こども教室』におけるプログラム開発のために」平成22年9月
- ③熊本県・熊本県教育委員会「くまもと放課後子どもプラン活動レシピ集」平成23年
- ④独立行政法人国立青少年教育振興機構「学校で自然体験を進めるために－自然体験活動指導者養成研修会テキスト」平成22年3月
- ⑤独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもたちに体験活動を！」
- ⑥社団法人日本ネイチャーゲーム協会ホームページ (<http://www.naturegame.or.jp/>)
- ⑦家紋の種類と一覧ホームページ (<http://kamons.web.fc2.com/>)